

中学校区におけるめざす子ども像・・・「自分・人」「学ぶこと」「心と体の健康を」大切にできる子

学校教育目標；主体的に学びに向かおうとする、他者と協働しようとする児童を支援する  
・ペア学年での双方向の交流を通し、自己有用感や自己肯定感を高める活動を行う。（人権委員会）  
・研修テーマ「自己決定ができる児童を育てる授業づくり～支えと委ねのバランスを図る～」(学力向上委員会)

確かな学びの現状  
○令和7年度全国学力・学習状況調査(4月, 6年生)や「すくすくウォッチ(大阪府学力調査)」(4月, 5, 6年生)では、情報の扱い方(国語)や直・並列つなぎの理解(理科)ではよい結果が見られた一方、「書くこと」「工夫して相手に伝える」「図やグラフの関連付け」などに関する事項に課題が見られた。(下線部は、R6と同じ調査結果)  
○令和7年度堺市学習・生活状況調査(5~6月, 4~6年生)では、「失敗をおそれず挑戦している」に肯定的回答80%(3学年平均, R6は78%)、「先生は、わかるまで教えてくれる」95%(91%)、「わからないことなどを質問しやすい雰囲気」で授業が行われた63%(62%)、「グループやペアで意見や考えを出し合い課題を解決した」86%(69%)、「1か月」に、1冊も本を読まない24%(24%)であった。  
○令和7年度学校教育アンケート(12月, 全児童)では、「学校へ行くのが楽しい」84%(R6は85%)、「授業はわかりやすく、勉強ができるようになってきている」91%(94%)、「図書室で本を読むことは好きだ」82%(86%)であった。  
○令和7年度2学期までの単元テストでは2つの学年で国語、算数の2教科とも80%を超えた。国語は全学年で80%を超えた。国算に限らず、基礎学力の向上をさらに図るとともに、間違いをおそれず、難しい課題にも挑戦しようとする教室づくりを進めたい。

豊かな心・健やかな体の現状  
○令和7年度堺市学習・生活状況調査(5, 6月, 4~6年生)では「自分には、良いところがある」と肯定的に答えた児童の割合は76%(3学年平均, R6年度は82%)、「相手の気持ちを考え、優しい言葉遣いができている」82%(82%)、「先生たちは自分のよいところを認めてくれた」92%(88%)、「友達は自分のよいところを認めてくれた」87%(90%)であった。  
○令和7年度新体力テスト(6月)において、男女ともに、54%の項目で堺市平均を上回り、特に立ち幅跳びは全国平均を上回る男女学年が多かった。一方で、堺市平均を下回る男女学年が多かったのは握力と上体起こしであった。運動器機能調査(7年4月, 5年生対象, 理学療法士による)では、身体や足首の柔軟性が気になるとのことだった。  
○給食残食率6.7%(R7年6,11月の計18日間平均)。  
○令和7年度学校教育アンケート(12月, 全児童)において、「体育の授業で体を動かすのが楽しい」と肯定的に答えた児童の割合90%(90%)、「体育の授業でいろいろな運動ができるようになった」93%(91%)であった。また、「はるみ3つの約束ができてきている」は80%(88%)であった。

大項目	中項目	具体目標	具体的な取組 (●重点とする取組) (★中学校区での取組に係る取組内容)	判断基準 (評価のものさし)	評価方法	評価時期	進捗確認 (~12月)	達成状況(年度末)		
								自己評価	学校関係者評価	
確かな学び	授業改善	主体的・対話的で深い学びの実現	<ul style="list-style-type: none"> <li>●★教科の本質に迫る問い、学びを自己決定(選択)する場、ペアやグループで学ぶ場の設定や、「学びのコンパス」の考え方に基づく授業実践等により授業改善に取り組む。</li> <li>●「読解力」向上に向けた取り組みを各教科・学年で工夫して実施</li> <li>・条件付き作文(2段落で書く、キーワードを入れる等)や授業後のふりかえりの質向上(授業で学んだこと、学び方について書く等)など児童が学びをアウトプットする機会を設ける。</li> <li>・ノート指導の充実やノートの紹介(学びの紹介)等を行う。</li> <li>・授業のUD化を推進し、どの子もわかる、できる授業づくりを行う。</li> <li>・ICTの効果的な活用を図る。</li> </ul>	アンケートによる肯定的評価80%以上	学校教育アンケート、各調査結果、授業や活動の観察、実践報告	年度末				
		基礎学力の向上	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ノート指導の充実やノートの紹介(学びの紹介)等を行う。</li> <li>・授業のUD化を推進し、どの子もわかる、できる授業づくりを行う。</li> <li>・ICTの効果的な活用を図る。</li> </ul>	アンケートによる肯定的評価80%以上、2学期の単元テスト正答率80%(国)、75%(算)以上		年度末				
	学びを支える環境の整備	児童一人ひとりの特性や状況を理解した支援・指導の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>・主体的に学ぶことができる、心理的安全性の高い教室づくり</li> <li>・はるみ3つの約束(あいさつ、ろうか、チャイム着席)の定着を図る。</li> <li>・子ども支援委員会等を活用した児童の様子の共有や支援方策の検討</li> <li>・支援計画、指導計画活用、自立活動の充実。【困難さが生じる要因】に目を向け、【どうすれば困り感を減らせるか】を考え、指導の工夫の意図を設定し、それに基づく手立てを実施</li> <li>・SSW(R8年度、本校本務校)、外部機関や専門家と連携の充実を図る。</li> <li>・必要な児童への学びへのアクセス支援(iPadの活用等)</li> </ul>	アンケートによる肯定的評価80%以上	年度末					
豊かな心・健やかな体	自己有用感・肯定感を高める	自信をもち、他者と協働しようとする児童を支える取組をすすめる	<ul style="list-style-type: none"> <li>●★「好き(興味関心)を育み「得意」を伸ばしながら、それを原動力として学び全体への動機付けを図っていく取組と、当事者意識をもって自分の意見を形成し、多様な他者と対話や合意を図る取組をすすめる。</li> <li>・自分や他者の良いところ探し、仲間づくり、ペア学年での双方向の交流や縦割り活動等に取り組む。人権及び道徳教育の計画的な実践を行う。</li> </ul>	アンケートによる肯定的評価80%以上	学校教育アンケート、各調査結果、授業や活動の観察、実践報告	年度末				
	自らの健康を育み守る	体力の向上、安全な生活	<ul style="list-style-type: none"> <li>★体育の学習における運動の質・量の向上や、「なわとびチャレンジ」や児童会の取組等の運動を「楽しむ」機会・環境の充実を通し体力向上を図る。</li> <li>・いじめ防止等の授業、予防的で成長を促す生徒指導、けが防止の啓発等を行い、安心して過ごし、安全な生活を送ることができる環境の充実を図る。</li> </ul>	アンケートによる肯定的評価80%以上、(参考)新体力テスト結果経年比較		年度末				
	健康的な生活習慣の形成	<ul style="list-style-type: none"> <li>・健康な生活等について啓発し、自らの食生活を考える力を育てるため食育授業や給食指導等を行う。</li> </ul>	アンケートによる肯定的評価80%以上	年度末						
地域協働	開かれた学校づくりをすすめる	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の方々や関係機関と連携し、学びを支える環境の充実を図る。</li> <li>・オープンスクールやホームページ等を通して学校の様子を公開する。</li> </ul>	アンケートによる肯定的評価80%以上	学校教育アンケート	年度末					
	学校群の取組をすすめる	<ul style="list-style-type: none"> <li>・晴美台中学校区におけるめざす子ども像の実現に向けた学校群での取組をすすめる。</li> </ul>	アンケートによる肯定的評価80%以上		年度末					

校長より(年度末)

学校関係者評価者から(年度末)